

## 『それ、誰のものですか？』 エペソ人への手紙4章27～32節 2018.8.12 聖日礼拝説教より

『盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。』  
エペソ人への手紙4章28節

①あなたの持ち物(あなた自身)は誰のもの…ヨブは大切なものを失ったとき、「主は与え、主は取られる(ヨブ 1:21)」と信仰を告白。今あるもの全ては神からのものだ。世は持ち物全てを「私物」とするが、本当は「借り物」。期限がくれば返し、勝手に処分もできない！命も地球も賢く運用し、神と人が喜ぶ世界(人生)となるように一時的に委ねられたもの！また「借り物」は恵みの「所有物」でもある。マタイ25章「タラントの譬え話」のように、与えられた賜物を用い、実を結び、それを隣人と喜び、神に感謝できる人生を歩む！私たちは「何一つ自分のものはない」が、同時に「この神にあって必要なものを全て持っている」とも言える(詩編 23:1)！あるのは神への「感謝」のみ。★その「賜物」の中には、病や障害、苦難や人弱さもある。弱さを通して神の力を！障害を通して神の特別な計画を！病や絶望を通して永遠の希望と慰めを知った方々が証している。

②「盗まない」人生！(エペソ 4:28)…私たちは①神様のもの、②隣人のもの、③「私」に委ねられたものを「盗む」。『あなたがたは、わたしのものを盗んでいる(マラキ 3:9)』と言われる神の前に生き方を悔い改める人はいるか？礼拝の時間を自分の用に使えば、神の時間を盗む！自分の責任を丸投げすれば隣人の時間や労力を奪い、陰口を言えば、その隣人の信用を奪う！福音を伝えなければ、救いの機会を奪う。無駄使い(酒・タバコ・ギャンブル…)は、健康も幸せも壊していく！「盗まない」人生の3つの祝福がエペソ 4:28にある。◆「盗み」の反対は「慈善」。今の持ち物に満足せず、欲しがらばかりの人に喜びなし。『盗まない』人生は「与えて喜ぶ者となれる」。◆私たちが働くのは誰かを助け、与えるため。『盗まない』人生の方法は、自分に出来ることを関われる範囲で最善を尽くすこと。◆骨折って働く…「骨折って」とは、「疲れ果て、嫌になる」の意。与え尽くしても「無駄骨だった」と感じるのが…しかし神は、あなたの労苦を知り(黙示 2:2)、人ではなく、主に対する奉仕だと思ひ出させ(コロサイ 3:23～24)、何一つ無駄はなかったと喜ぶ日が来ること(ピリピ 2:15～16)を確約！「諦めず、主に対する奉仕を続ける姿勢！

★自分に出来ることを、できる範囲で、与えることを喜びとする。今週、その奉仕をイエス様に対するご奉仕として心から実行したい！